

佳作

## ありがとう

福岡県 北九州市立鞘ヶ谷小学校四年 松下 真翔

「ありがとう。」

これは、まほうの言葉です。「ありがとうを言われていやな気持ちになる人はいないから、人に何かをしてもらった時は、感しゃの気持ちを伝えるんだよ」と、小さいころから言われています。

ぼくは、四人兄弟の長男です。せいかくは、おとなしくてはずかしがりやでまじめです。そんなぼくとは正反対のせいかくなのが、次男のりくとです。今年同じ小学校に入学してきました。元気がよくて人なつっこくてやんちゃで、時にぼくには考えられない行動をしたりします。例えば、通学の時です。ぼくは弟が車にひかれなにか心配で手をつないでいるのに、虫が大好きな弟は、虫を見つけるとすぐつかまえようとします。ぼくが、「あぶないから前を向いて歩かないとだめだよ。」と言うと、

「お兄ちゃん、守ってくれてありがとうね。」  
と言ってくれます。学校では、毎朝校長先生がみんなを見守ってくれています。ぼくは、はずかしくて少し小さい声で、

「おはようございます。」

と言うと、横からだれよりも大きな声で、

「先生、おはようございます。」

とあいさつします。「はずかしくないのかな、すごいな」とぼくはいつも思っています。

ぼくのお友達にも気楽に話しかけます。みんなやさしいので、いっしょに遊んでくれたり、弟のことを気にかけてくれたりします。

「遊んでくれてありがとう。」

弟は言います。お昼の給食の時間になると、給食が苦手な弟のことが気になって自分が食べ終わると弟のところへ行きます。するとみんなの前で、

「これはぼくの兄ちゃん。来てくれてありがとう。」

と大きな声で言われます。はずかしくて、

「りく、やめて。」

と言っていたけれど、さい近一年生のみんなが、ぼくに話しかけたり、手をふってくれたりするようになります。ぼくは兄弟がふえたような気がしてうれしいです。

弟の世話で大変なはずなのに、さい近みんなから言われることがあります。

「まな君、りくが小学校に来てから楽しそうやね。」  
ぼくは弟が大好きです。けんかもするし、言う事を聞いてくれなくてもういやだと思うときもあります。だけど弟の「お兄ちゃん、ありがとう」の言葉のまほうにかかります。ぼくからも伝えたい事が二つあります。一つは、ぼくのお友達と弟のお友達へ。やんちゃでめいわくをかけていると思うけど、弟と仲良くしてくれてありがとう。二つ目は弟へ。いつもたよってくれてありがとう。そして、ぼくの弟でいてくれてありがとう。